

第3次千葉県青少年総合プラン 平成30年度事業評価シート

事業NO	1
------	---

事業名	ちばっ子「学力向上」総合プラン		
担当課・室・班名	教)学習指導課	問合せ先(電話番号)	4057

1 事業の概要

柱	I	基本目標	1	基本方策	①社会を生き抜く力の育成					
事業内容	「読書活動や体験学習を通じた学習意欲の向上」「子どもたちの主体的な学びを支える取組の充実」「授業力の向上による学びの深化」「学力向上に係る取組の適切な評価・改善の推進」「信頼される質の高い教員の育成」の5つの視点による、29の事業を展開することにより、児童生徒の学力向上を図る。									
当初予算額(千円)	H30年度	175,916	R元年度	177,093	R2年度		R3年度		R4年度	
決算額(千円)		112,507								
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
		国庫		国庫						

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

○「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業では、高校14校を実践校として指定し、高校生(教職希望者中心)が近隣の小・中学校へ出向き、学習支援や課外活動の援助等を行った。活動日数はのべ273日、活動人数は高校生がのべ445名、小・中学生は2,145名であった。
 ○千葉県学習サポーター派遣事業では、学習サポーターを小・中学校190校へ派遣した。
 ○県内の小・中・高等学校等8会場において学力向上交流会を開催した。参加した教員は、会場校の公開授業を参観するとともに、分科会において学力向上施策を活用した授業等について協議した。

(2)事業の成果

○「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業では、小・中学生からは「楽しく外国語を学習できた」「来年も教えに来てほしい」等の感想があり、学習意欲の向上につながった。また、高校生からは「先生の仕事の奥深さを学ぶことができた」「たくさん笑顔を見ることができ、私自身が楽しかった」等の感想があり、進路意識の向上につながった。
 ○千葉県学習サポーター派遣事業では、授業中の学習支援や補充学習等により、派遣校の学力の向上につながった。
 ○学力向上交流会の参加者アンケートでは、「明日からの授業の参考になった」「県のいろいろな事業を授業で活用したい」等、肯定的な感想が多く、参加した教員の授業改善に向けた意識の向上につながった。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

○令和2年度から、第3期千葉県教育振興基本計画がスタートするため、本プランにおいても、新しい教育振興基本計画の内容を基に内容の再構築を図る。
 ○新しいちばっ子「学力向上」総合プランを策定するに当たって、現在の各学力向上事業の目的と内容を見直し、事業の精選を図る。
 ○各事業の成果と課題を明らかにするための評価計画を策定する。

○参考

関連指標	[主体的な学びの推進] ※【別紙】参照 授業で、話し合い活動がしっかりできていると考えている児童生徒の割合 <全国学力・学習状況調査>					目標	増加を目指します
	基準年(H29)	H30	R1	R2	R3	R4	
	小学校6年生 77.0%	小学校6年生 76.6%					
	中学校3年生 72.0%	中学校3年生 73.8%					

4 委員意見

5 担当課回答

--	--

第3次千葉県青少年総合プラン 平成30年度事業評価シート

事業NO	7
------	---

事業名	消費者教育啓発事業		
担当課・室・班名	くらし安全推進課	問合せ先(電話番号)	2292

1 事業の概要

柱	I	基本目標	1	基本方策	①社会を生き抜く力の育成					
事業内容	消費者の自立を支援し、消費者トラブルを未然に防ぐため、各種講座等を実施する。また、消費者被害防止に向け、消費者情報の提供や広報啓発を行う。									
当初予算額(千円)	H30年度	7,575	R元年度	7,187	R2年度		R3年度		R4年度	
決算額(千円)		5,628								
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
		一部国庫		一部国庫						

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

○自立支援講座の実施	57回	4,389人参加	(内若者対象	28回	2,838人参加)
○消費生活サポーター養成講座の開催	2回	134人参加			
○高校生等若者向け消費者教育教材「オトナ社会へのパスポート」作成	テキスト87,000部 指導者向け手引書4,000部				
○教員向け研修会の開催	1回	48人参加			
○消費者フォーラムの開催	1回	305人参加			

(2)事業の成果

消費者フォーラムや自立支援講座等の開催により、高校生等の若者をはじめ様々な世代に対し、消費者教育や啓発を提供することが出来た。 また、教育機関と連携し、教員向け研修の実施や消費者教育教材の作成配布を行い、学校における消費者教育を促進した。
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・成人年齢の引下げを踏まえ、消費者被害防止のみならず自立した消費者を育成していくためには、ライフステージに応じた消費者教育を実施していくことが非常に重要である。 ・そのため、学校において、実践的な消費者教育を行うために、引き続き「教員向け研修会」の開催や、高校生等若者向け啓発資材(冊子)の配布を行う必要がある。 ・さらに、消費者問題に関する講座については、様々な主体に対し、積極的に周知を図っていく必要がある。
--

○参考

関連指標	目標					
	基準年	H30	R1	R2	R3	R4

4 委員意見

5 担当課回答

--	--

第3次千葉県青少年総合プラン 平成30年度事業評価シート

事業NO	11
------	----

事業名	道徳教育推進プロジェクト事業		
担当課・室・班名	教)学習指導課	問合せ先(電話番号)	4058

1 事業の概要

柱	I	基本目標	1	基本方策	①社会を生き抜く力の育成					
事業内容	小・中・高等学校の各学校段階に応じてより効果的な指導を行うため、「『いのち』のつながりと輝き」をテーマに、今後の道徳教育の在り方について検討し、千葉県ならではの道徳教育を推進することにより児童生徒の道徳性を高める。									
当初予算額(千円)	H30年度	32,502	R元年度	33,000	R2年度		R3年度		R4年度	
決算額(千円)		27,501								
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
		全額国費		全額国費						

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・年間1回の「道徳教育懇談会」を実施した。 ・平成30年度は、幼稚園1園、小学校9校、中学校9校、高等学校10校、特別支援学校3校の研究校(園)を「特色ある道徳教育推進校(園)」に指定し、実践研究を実施した。 ・中学校、高等学校等の道徳教育推進教師研修会を実施した。 ・心の教育推進キャンペーンによる公開授業の実施と実践資料集の作成・配付を行った。 ・情報モラル教育研修会では、県立学校19校、市町村立小・中学校81校に講師を派遣した。 ・教師用映像資料を作成した。
--

(2)事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳教育懇談会」において、今後の道徳教育や発達の段階に応じた授業の在り方等について協議できた。 ・「特色ある道徳教育推進校(園)」における実践研究では、「考え、議論する道徳」への転換を目指した授業改善に取り組んだ。公開授業では保護者から「子供たちの心の中に友達に対するあたたかな気持ちが見られた。」「板書が整理されていて児童がイメージできるように工夫されていた。」等の感想が寄せられた。 ・中学校、高等学校等の道徳教育推進教師研修会は、中学校は4回、高等学校は2回開催した。道徳の教科化に向けた国の動向を説明したり、県で作成した映像教材を使った授業実践の事例報告を行った。 ・情報モラル教育研修会では、特に情報機器を使用する際に、使い方によっては相手を傷つけるなど、人間関係に負の影響を及ぼすことがあることを学ぶ機会が得られた。 ・これまで県が作成した教材等を活用した「考え、議論する道徳」の実際の授業展開例を、小学校、中学校、高等学校ごとに映像として収録するとともに、各授業のポイントを授業者へのインタビュー形式で収録して編集し、作成・配付した。
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領、第3期千葉県教育振興基本計画策定への対応。(道徳教育推進のための基本的な方針の改訂) ・道徳教育実施状況調査を行い、映像教材や読み物教材の活用状況を把握する。 ・県で作成した映像教材を積極的に活用するとともに、引き続き発達段階に応じた、千葉県独自の教材作成を進める。 ・道徳授業の一層の充実、また、評価の改善のために、道徳教育推進教師を対象にした研修会を開催する。
--

○参考

関連指標	目標					
	基準年	H30	R1	R2	R3	R4

4 委員意見

5 担当課回答

--	--